別紙様式３

上越教育大学研究プロジェクト　終了報告書（若手研究）

研究代表者　所属・職名　臨床・健康教育学系　助教
氏　　名　　坂口　嘉菜
研究期間　令和元年度

研究プロジェクトの名称	聴覚障害児の文章読解における図表活用に関する研究 ―概念図を含む文章の読解過程に着目して―
研究プロジェクトの概要	本研究の目的は、聴覚障害学生を対象として、図表を含む文章の詳細な読解過程、理解度について明らかにすることである。具体的には、記号の解釈・理解度がテキスト全体の読解に与える影響について明らかにすることを目的とした。 これまでに A 大学に在籍する聴覚障害学生群(以下、聴覚群)20 名と B 大学に在籍する健聴学生群（以下、健聴群）21 名を対象に、概念図を含む文書を読んでもらい、内容理解度テストと概念図に用いられた記号の解釈テストを実施した。内容理解度テストは難易度（抜き出し、解釈、推論）と参照箇所（文章のみ、図のみ、文章 or 図を参照、文章 and 図を参照）の 2 つの基準を設定して評価を行うこととし、文書の中で用いられた記号について、記号解釈調査を行った。
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	予備調査の結果、本研究は概念図を関係図及び手続図の 2 つに分類して課題を作成する必要があり、2 種類の図についてそれぞれ 2 課題作成した。具体的には、同時処理的な解釈が必要とされる「関係図」及び継次処理的な解釈が必要とされる「手続図」とに分け、それぞれの図を含む文章課題（600 字程度）を作成し、結果として 4 課題計 52 問の問題を実施した。 結果、両群ともに抜き出しレベルでは内容理解に差が認められなかったものの、解釈レベルでは関係図の方が有意に内容理解度が高く、推論レベルでは手続き図の方が有意に内容理解度が高いことが明らかとなった。この結果について、解釈レベルでは書き手の意図に沿った、継次的処理を加えた読解が手続き図の難しさに結びついたと考察された。一方、記号解釈調査と照らし合わせた分析の結果、推論レベルにおいては、聴覚群の方が記号の意味を記述する傾向にあり、関係図及び手続き図の記号を書き手の意図に沿って解釈すること自体に難しさがあったと考察された。内容理解度テストと記号解釈調査の分析から、聴覚群にとって抜き出しレベルでは図の活用の割合が高いものの、解釈・推論レベルでは活用の割合が低いことが明らかにされた。
研究成果の発表状況	2020 年 9 月に福岡にて開催される日本特殊教育学会において、研究成果を発表する予定である。また、同学会の学会誌に論文を投稿する準備を進めている。
学校現場や授業への研究成果の還元について	本研究プロジェクトを通して得られた知見は、聴覚障害児に対する非連続型テキストのリテラシー向上をめざす授業において、指導法の改善につながるものと考えられる。また、本研究プロジェクトの結果を学会発表・論文発表を通して広く公表する予定であり、教育現場で子どもたちに直接還元することが期待される。

【提出期限】令和２年３月３１日（火）：厳守